

教員紹介

氏名	高見 秀一	担当科目	刑事訴訟法総合演習、 刑事訴訟実務の基礎、 刑事模擬裁判
略 歴			
出身地	長野県長野市生まれ		
出身大学等	1986年 京都大学法学部卒業		
取得学位	学士（法学）		
職 歴	1986年 司法修習生（40期） 1988年 大阪地方裁判所判事補 1990年 大阪弁護士会登録 2004年 大阪市立大学大学院法学研究科特任教授 2014年 大阪製鐵株式会社社外監査役（現在に至る）		
在外研究歴			
社会貢献等	2012年10月～2013年3月法制審議会刑事法（自動車運転に係る死傷事犯関係）部会臨時委員		
主要研究業績等			
主 著 等	主著： ・「逮捕・勾留・保釈と弁護」（共著）（1996年5月、日本評論社） ・「秘密交通権の確立」（共著）（2001年10月、現代人文社） ・「コンメンタール『公判前整理手続』」（共著）（2005年11月、現代人文社） ・「実践！刑事証人尋問技術－事例から学ぶ尋問のダイヤモンドルール」（共著）（2009年4月、現代人文社） ・「実践！刑事証人尋問技術（パート2）」（共著）（2017年9月、現代人文社） 主論文：		

- ・「逮捕状請求書謄本の謄写請求の勧め」（『季刊刑事弁護』4号、1995年10月）
- ・「逮捕・勾留と『情報の不平等』」（『刑法雑誌』35巻2号、1996年3月）
- ・「外国人事件と公判手続－公判のテープ録音と通訳の正確性」（『刑事手続の最前線』、1996年5月、三省堂）
- ・「複雑酌酊」（共著）（『季刊刑事弁護』17号、1999年1月）
- ・「外国人事件と公判」（共著）（『新刑事手続II』、2002年6月、悠々社）
- ・「押収物の還付」（刑事弁護Q&A）（『季刊刑事弁護』41号、2005年1月）
- ・「裁判員制度における事実認定－裁判官と市民の役割－」（日本犯罪学会発行『犯罪学雑誌』73巻3号、2007年6月）
- ・「最高裁判例と事実認定適正化の動き」 ケース報告⑥和歌山カレー事件（『季刊刑事弁護』65号、2011年1月）
- ・「知的障がい者の放火冤罪事件－検察官が公訴を取り消し、公訴棄却後に捜査報告書の改ざん発覚」（『季刊労働福祉』132号、2011年9月）
- ・「自己矛盾調書の証人への提示・朗読」（『実務体系 現代の刑事弁護 2 刑事弁護の現代的課題』、2013年9月、第一法規）
- ・「被告人供述の再現資料の提出で得ることができた逆転無罪判決（大阪高裁平成19.9.12）（痴漢）」（『季刊刑事弁護』76号、2013年10月）
- ・「使い勝手のよい反対尋問事項書を作ってみよう（その1～3）」（『季刊刑事弁護』79号～81号、2014年7月～2015年1月）
- ・「法328条及び規則199条の10、11、12の解釈、射程（法律論・一般論）」（『季刊刑事弁護』81号、2015年1月）
- ・「手続二分論的運用の試み」（『法と心理』15巻1号、2015年10月、日本評論社）
- ・「経験則と裁判員裁判」（『季刊刑事弁護』90号、2017年4月）
- ・「実践的反対尋問事項書の作り方」（『新時代の刑事弁護』、2017年9月、成文堂）